

## タイムコドモデイサービスゆっく事業所における自己評価結果

討議年月日: 令和 2年 2月 21日 月日: 令和 2年 2月 21日

公表: 令和 2年 3月 27日

事業所名 タイムこどもデイサービスゆっく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別療育の時間は、部屋の隅やパーティションを使用している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		ほぼ1対1の配置で行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		掲示物等で構造化している。絵カードや写真で工夫している。玄関の段差は台を置きつまずかないようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、室内、玩具等の消毒をしている。活動内容によっては室内の環境設定を変えている	クールダウンの部屋の活用の仕方を考えたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎週会議で行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		今年度は昨年度より早く行えた。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		通信、HPで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		法人第三者委員が行っている。	外部の第三者機関に依頼するよ方向で考える。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修を受けるように促しているスタッフに研修の情報も知らせている。	外部研修に全員年2回は行けることになっているので、計画的に交代で全員が行けるようにしたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		ミーティングや会議で、多くの職員の意見を聞き、取り入れて計画を作成している	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		細かいチェック用紙を使用している。	発達検査、ポータープログラム、TASPなどを取り入れ、アセスメント表の見直しをしていきたい
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援計画は、作業療法士からのアドバイスをもとに具体的に記入している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		各自が支援する前に毎回確認している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		季節に合わせた活動を立案している。年間・月間予定をたてている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		新しい活動を取り入れるときは小さい範囲から取り組んでいる。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		個別と集団、それぞれを生かし支援計画を作成している。言葉の発達を促す「ことば音楽療法」を取り入れた。	

17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	前日までのお子さんの様子等確認している。	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	多機能型のため、送迎の関係でいる人だけでやっている。	参加できなかった人への対応を強化し、共有を図る。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	療育や生活のチェックリストや報告書を毎回記入している。	記録をもっと丁寧に検証・改善し、実践につなげていきたい。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	保護者との面談や相談員と連携しながら、見直しの必要性を判断している。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者、児発管が出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて行っている。	受け身でなく、各関係機関ともっと積極的に連携を行っていききたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/		該当なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/		該当なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		幼稚園、保育園を訪問したり、連絡会に出席したり、電話や書面で情報共有している。	移行に向けても積極的に働きかけていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学のお子さんに関する申し送りを面談や書面でしている。	さらに学校と連携できるようにしていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		県の療育センター等で助言を受けている。	今後も研修・助言を生かし、スタッフみんなが療育の専門的スルを身につけていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		児童館などで一緒に遊ばせてもらっている。	どのようにしたら交流できるか、きっかけを見つけていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		子ども部会になどに参加している。	今後も積極的に参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に、その日の様子をお伝えしたり、連絡帳に記入している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		保護者へのアドバイスは十分とは言えず、研修に参加して学んでいきたい。	発達支援センター主催のペアレントトレーニングの研修に参加し、それを実践に移していきたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			ガイドラインについては、保護者会・面談時にもっと詳しい説明をする必要がある。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や連絡帳、電話等で行っている。面と向かって言いづらい時もあると思うので、メールでのやり取りも行っている。	助言が適切であったかの検証をチームで行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者の方同士が顔を合わせる場を作るよう心がけている。保護者会は年に5回は開いている。	今後も、保護者同士が繋がっていけるようコーディネートしていきたい。また、兄弟姉妹の会も継続していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		法人本部、相談支援と連携して行っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月の「デイ」通信、年2回の法人の通信を出している。	ゆっく独自の通信も出せたらと思う。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報、鍵付きロッカーに保管している。	就業規則の個人情報に関する条項を再度確認し、情報機器、USBの管理等もしっかり行っていきたい。

39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ゆっくり話したり、絵カードを使用している。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		法人としてはクリスマス会やアート展等を行っている。 ゆっくとしてはやっていないので、何か企画したいと思っている。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	各マニュアルを作成し、スタッフ会議では定期的に確認している。 保護者向けのマニュアルも作成し配布している。	作成したマニュアルが実践で生かされるよう、研修を増やしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	消防署立ち合いのもと、年2回行っている。不審者に対しての訓練をやりたい。	水害の避難訓練も行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	個人カードを作成し、発作のあった場合の対応等、誰でも確認、対応できる。	災害時に親に引き渡せなかった場合等、緊急時の対応も考える。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	おやつは保護者に用意していただいた物を食べるようにしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	会議の時に話し合い、原因分析しているヒヤリハットの報告書を作成している。	時系列になっているものを、項目別に分類・分析して冊子にしたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待委員が研修・会議に出席し、スタッフ会議でも事例をだし常に話しあっている。デイ会議でミニ研修を行ったり、年2回の点検自己点検・アンケートを実施している。	外部研修への参加をさせたい。特に心理的虐待に関して、日頃の声かけはどうか？日常点検を行っていきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	本部、虐待委員会と連携しているが、当該事業所には現在該当児はいない。無理やり抱えたり引っ張ったりしないで、自ら動くよう支援の工夫をしている。	拘束なしで支援できるよう今後も会議等で話し合い、事例研究をしていきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。